

# 多摩川両岸の地形や土地利用

～高津区・中原区と世田谷区を中心に～

2017年(平成29年)1月14日

川崎市立中原図書館・多目的室

主催 川崎市 協力 世田谷区

報告 日本地名研究所 菊地恒雄

# 橋・鉄道の建設年と周辺の開発

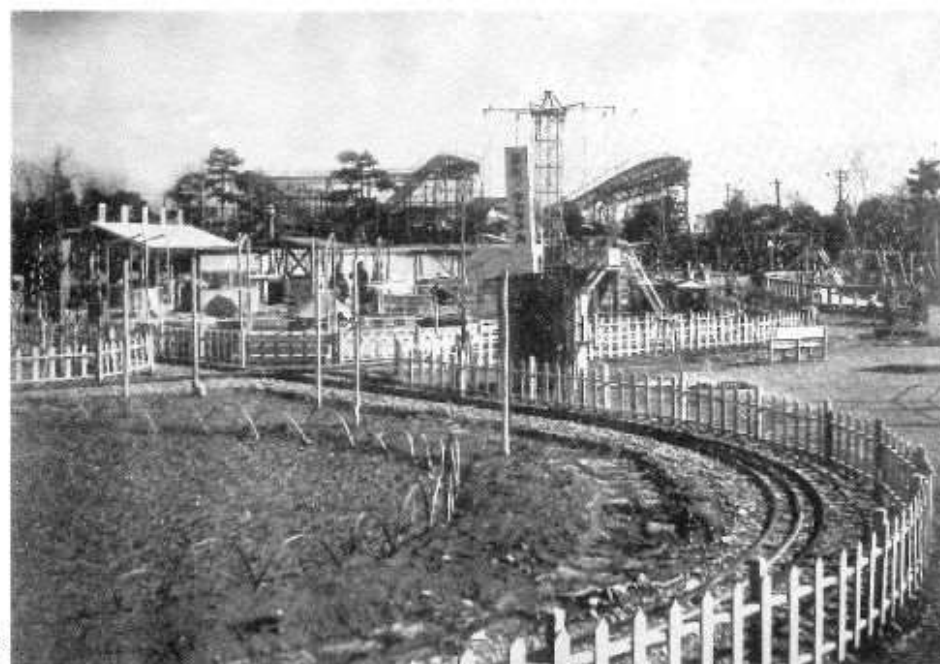


# 鉄道と橋

二子橋を車と鉄道が併用



二子玉川園が再開した頃 (昭和29年)



# 多摩川園跡地にできた田園調布せせらぎ園・湧水



世田谷区玉堤に温室村があった



# 昭和30年代から盛んになる (中原区下小田中)



# 高津区坂戸にある温室 (下小田中から伝授)



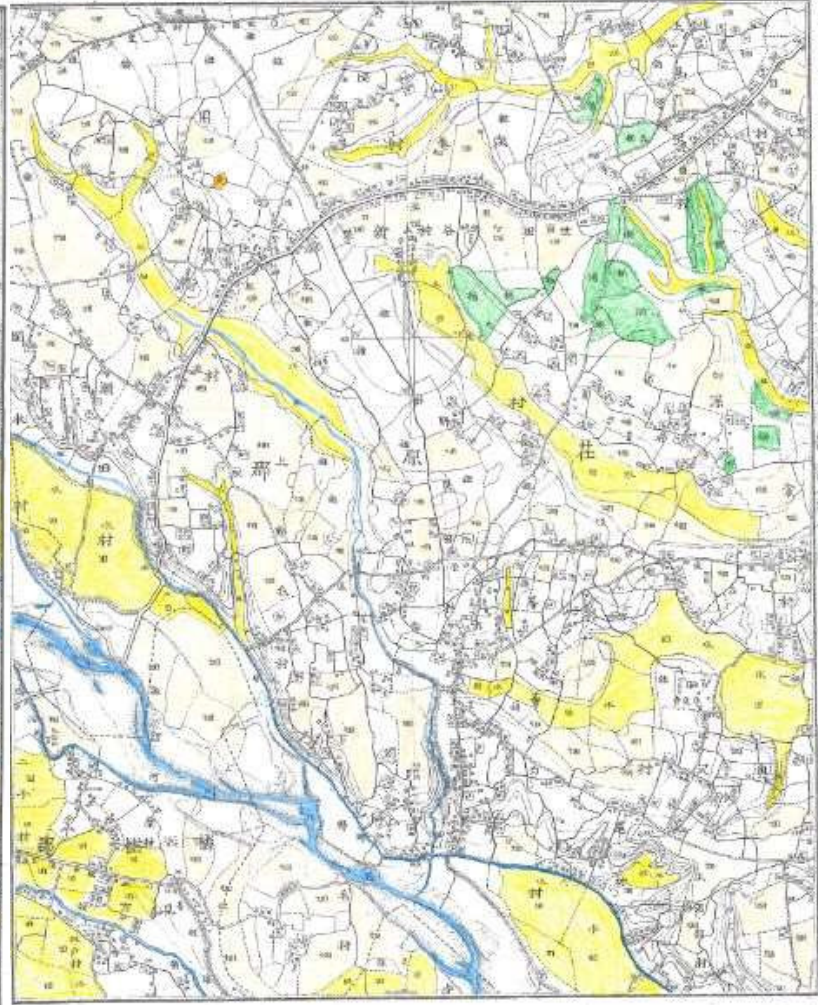
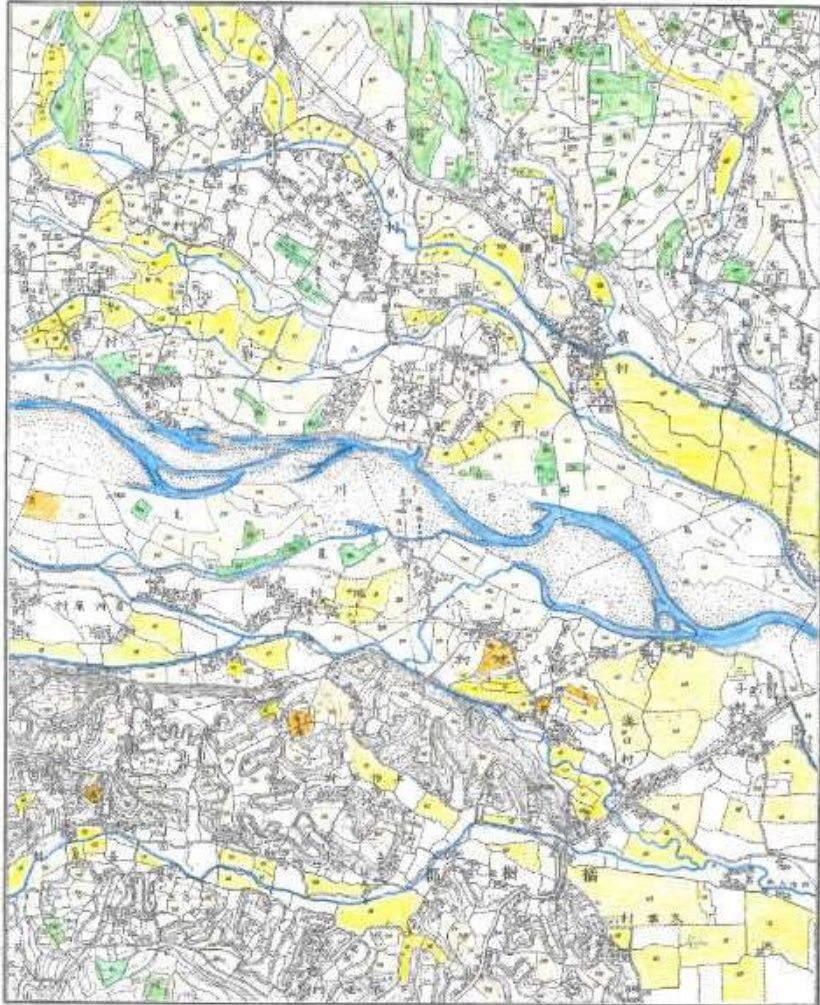
# 明治初期の多摩川の流路





村口溝郡樹橋國藏武縣川奈神

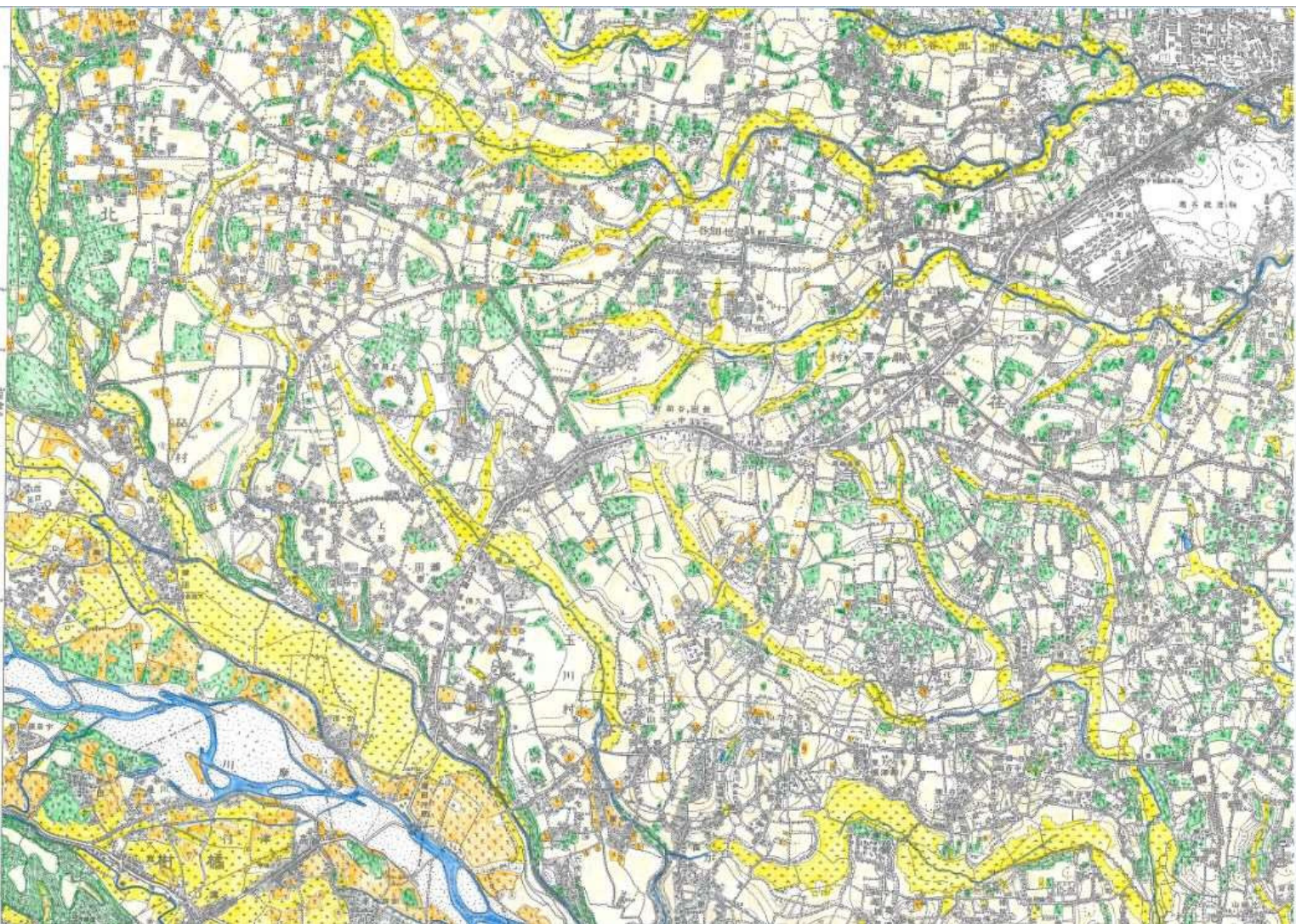
圖村賀用及村カ々等郡原荏国藏武府京東



土地利用図

(明治14年フランス式より)

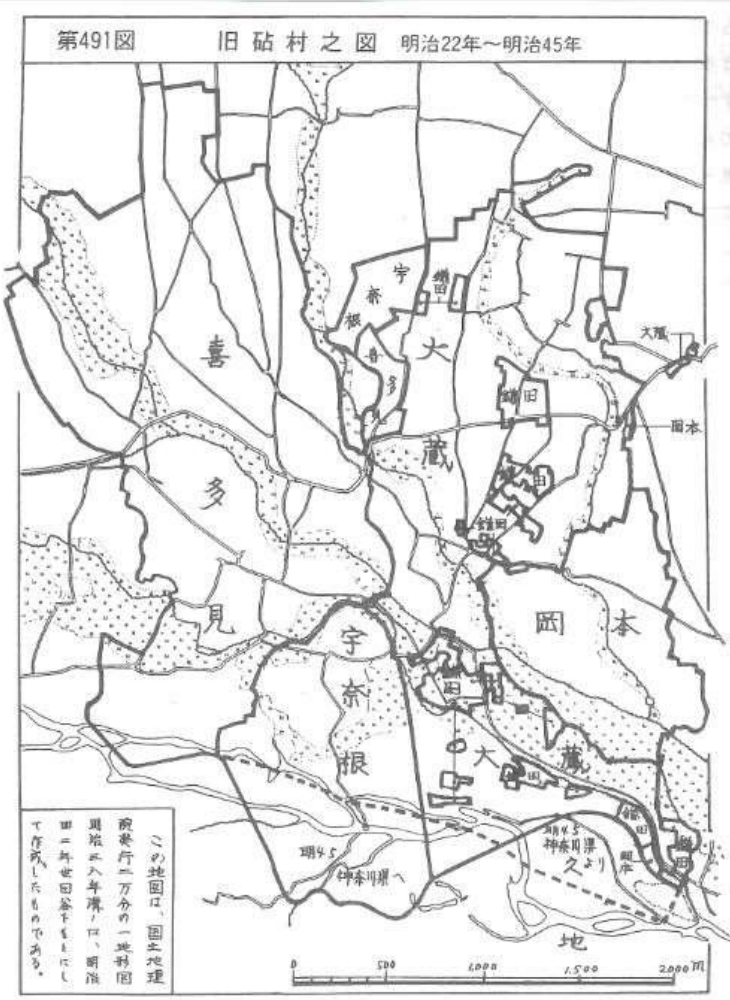
土地利用図(明治44年)



# 大字・小字 高津区・中原区



# 大字・小字 世田谷区砧地区



大字喜多見字図



大字大蔵・鎌田・横根字図



大字宇奈根字図



大字岡本字図

# 大字 世田谷区玉川地区



# 大字 世田谷区玉川地区(2)



左：大字瀬谷字図 上：大字用賀字図  
 左下：大字上野毛字図 下：大字野良田字図



左：大字下野毛字図 上：大字奥沢字図  
 左下：大字等々力字図 下：大字尾山字図



## 高津区の町名の変遷(1)

川崎の町名 変遷	明治22年	字	昭和3年	昭和12年 川崎市編入		S47年区制	住居表示施 行年	平成28年現 在
みぞのくち 溝ノ口村	高津村		高津町	みぞのくち 溝口			H9.9.1 H9.11.25 H14.10.15 H24.11.19	みぞのくち 溝口1～6丁 目
ふたご 二子村	高津村		高津町	ふたご 二子		久地(東耕 地)の一部	H9.11.25	ふたご 二子1～6丁 目
くじ 久地村	高津村		高津町	くじ 久地				くじ 久地
						溝口の一部 (東耕地)	H14.10.15 H18.10.10 H19.11.5 H22.11.22	久地1～4丁 目
うなね 宇奈根村	北多摩郡砧 村		M45高津村 S3 高津町	うなね 宇奈根				うなね 宇奈根
せた 瀬田村	玉川村		M45高津村 S3 高津町	せた 瀬田			H6.11.14	せた 瀬田
すわがわら 諏訪河原村	高津村		S2 すわ 諏訪 S3高津町				H6.11.14 H9.11.25	すわ 諏訪1～3丁 目
きたみがた 北見方村	高津村		高津町	きたみがた 北見方			H6.11.14	きたみがた 北見方1～3 丁目
しものげ 下野毛村	玉川村		M45高津村 S3 高津町	しものげ 下野毛			H2.2.26	しものげ 下野毛1～3 丁目
さかど 坂戸村	高津村		高津町	さかど 坂戸		久本字鷺 鷺ヶ町の一 部	H3.11.26	さかど 坂戸1～3丁 目
ひさもと 久本村	高津村		高津町	ひさもと 久本		溝口字南耕 地の一部	H4.11.24	ひさもと 久本1～3丁 目
すえなが 末長村	橋村			すえなが 末長			H25.9.24 H25.11.18 H26.10.20	末長1～3丁 目

## 高津区の町名の変遷(2)

しんさく 新作村	橋村			しんさく 新作			S51一部変 更	S61.11.3 しんさく 新作1～6丁 目
きよさわ 清沢村	橋村							ちとせ 千年
いわかわ 岩川村	橋村			ちとせ 千年		S29.10土地 区画整理	ととせしんま ち 千年新町	ととせしんま ち 千年新町
明治8年合 併 ちとせ 千歳村				千年 子母口		S30.8千年・ 子母口一部	しほくちふじ みだい 子母口富士 見台	しほくちふじ みだい 子母口富士 見台
しほくち 子母口村	橋村			しほくち 子母口				しほくち 子母口
あくつ 明津村	橋村			あくつ 明津				あくつ 明津
かにがや 蟹ヶ谷村	橋村			かにがや 蟹ヶ谷				かにがや 蟹ヶ谷
ひさすえ 久末村	橋村			ひさすえ 久末				ひさすえ 久末
かじがや 梶ヶ谷村	宮前村			S13年川崎 市 かじが や	S20 一部大字宮 崎字鱧ヶ崎	S44.11 かじがや 梶ヶ谷1～6 丁目		かじがや 梶ヶ谷1～6 丁目
かみさくの べ 上作延 村	向丘村			S13年川崎 市かみさく のべ 上作				かみさくのべ 上作延
					S26.9 一部分離 向ヶ丘			むかいがお か向ヶ丘
しもさくのべ 下作延村	高津村		高津町	しもさくのべ 下作延村				下作延
							H19.11.5 H20.11.17 H21.11.24 H22.11.22	しもさくのべ 下作延1～7 丁目
野川村	宮前村		高津町	のがわ 野川			H57年分区 より分離	野川



## 中原区の町名の変遷(1)

川崎の町名 変遷	明治22年		大正14年	昭和8年川 崎市編入		S47年区 制	住居表示 施行年	平成28年現 在	
かみひらま 上平間村	御幸村		T13年川崎 市上平間					上平間	かみひらま
					S11.3.31 田尻町			田尻町	たじりちょう
					S11.3.31 北谷町			北谷町	きたやちょう
なかまるこ 中丸子村	御幸村		T13年川崎 市中丸子					中丸子	なかまるこ
しもめまべ 下沼部村	調布村	M45年 御幸村	T13年川崎 市下沼部					下沼部	しもめまべ
かみまるこ 上丸子村	中原村		中原町	上丸子				上丸子	かみまるこ
						S32.4.15 上丸子天神 町		上丸子天神 町	かみまるこてんじんちょう
						S32.4.15 上丸子八幡 町		上丸子八幡 町	かみまつこはちまんちょう
						S32.4.15 上丸子山王 町1～2丁		上丸子山王 町1～2丁目	かみまるこさんのうちょう
					S18.4.26 新丸子東1～ 3丁目			新丸子東1 ～3丁目	しんまるこひがし
					S18.4.26 新丸子町			新丸子町	しんまるこまち
こすぎ 小杉村	中原村		中原町	小杉				丸子通1～2 丁目	まるこどおり
								小杉	こすぎ
					S18.4.26 小杉御殿町1 ～2丁目			小杉御殿町 1～2丁目	こすぎてんちょう
					S18.4.26 小杉陣屋町1 ～2丁目			H3.9.30 小杉陣屋町 1～2丁目	こすぎじんやちょう
			S18.4.26 小杉町1～3 丁目			小杉町1～3 丁目	こすぎまち		
とどろき 等々力村	荏原郡 玉川村		M45中原村 T14中原町	等々力		小杉字堤外、 宮内字下河 原耕地、中河 原耕地	H6.10.17 等々力	とどろき	
みやうち 宮内村	中原村		中原町	宮内			H5.2.22 宮内1～4丁 目	みやうち	
かみこだなか 上小田中村	中原村		中原町	上小田中		宮内の一部	H8.2.13 上小田中1 ～7丁目	かみこだなか	
しもこだなか 下小田中村	中原村		中原町	下小田中			H2.11.23 下小田中1 H8.2.13 下小田中1 ～6丁目	しもこだなか	

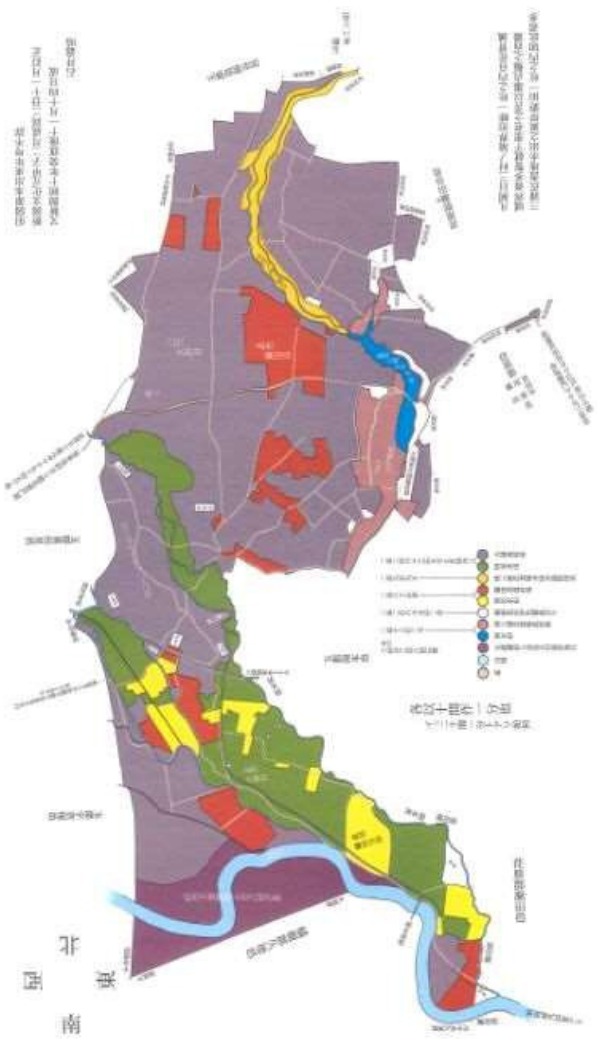
## 中原区の町名の変遷(2)

川崎の町名 変遷	明治22年		大正14年	昭和8年川 崎市編入		S47年区 制	住居表示 施行年	平成28年現 在		
しんじょう 新城村	中原村		中原町	新城				新城	しんじょう	
							S54.11.5	上新城1～2丁目	かみしんじょう	
							S54.11.5	新城1～5丁目	しんじょう	
							S54.11.5	新城中町	しんじょうなかつちょう	
							S54.11.5	下新城1～3丁目	しもしんじょう	
かしまだ 鹿島田村	日吉村		日吉村	鹿島田 北加瀬		S49.10	大倉町	大倉町	おおくらまち	
きたかせ 北加瀬村	住吉村		日吉村	北加瀬		S47.11.1	西加瀬	H21.11.2	西加瀬	にしかせ
かりやど 刈宿村	住吉村		中原町	苧宿				H21.11.2	苧宿	かりやど
きつき 木月村	住吉村		中原町	木月				H16.10.12	木月1～4丁目	きつき
					S15.8.30	きつきだいまち	*呼称変更	H16.10.12	木月大町	きつきおおまち
					S15.8.30	木月伊勢町		H15.10.14	木月伊勢町	きつきいせちょう
					S15.8.30	木月祇園町		H16.10.12	木月祇園町	きつきぎおんちょう
					S17.10.6	木月住吉町		H16.10.12 H21.11.2	木月住吉町	きつきすみよしちょう
いまい 今井村	住吉村		中原町	今井			今井南町一 部 字今井	H27.9.7		
					S15.8.30	今井南町		H27.9.7	今井南町	いまいみなみちょう
					S15.8.30	今井上町		H27.9.7	今井上町	いまいかみちょう
					S15.8.30	今井仲町		H27.9.7	今井仲町	いまいなかまち
					S15.8.30	今井西町		H27.9.7	今井西町	いまいにしまち
いだ 井田村	住吉村		中原町	井田				H8.11.18	井田1～3丁目	いだ
					S15.8.30	井田三舞町		H8.11.18	井田三舞町	いださんまいちょう
					S15.8.30	井田杉山町		H8.11.18	井田杉山町	いだすぎやまちょう
					S15.8.30	井田中ノ町		H8.11.18	井田中ノ町	いだなかのちょう
いちのつぼ 市ノ坪村	住吉村		中原町	市ノ坪				市ノ坪	いちのつぼ	

# 町名変遷図 世田谷区砧地区

江戸	明治2年	明治5年	明治22年	昭和11年						
大蔵村・鎌田村			砧村大蔵・鎌田	世田谷区大蔵町、鎌田町、飛地の喜多見町・宇奈根町・祖師ヶ谷一・二丁目	宇奈根町字上ノ台・喜多見町字向野田・石井土を編入	S30年再編・北部砧町	S44.8.1住居表示	砧一～八丁目	きぬた	砧町大部分、大蔵町・世田谷5丁目一部
大蔵村・岡本村			砧村大蔵・岡本	世田谷区大蔵町・岡本町			S46.5.1住居表示	砧公園	きぬたこうえん	大蔵町、岡本町、玉川瀬田町、玉川用賀町二・三丁目の一部
大蔵村		M8年横根村は大蔵村に編入	砧村大蔵	世田谷区大蔵町		S30年再編・中部大蔵町	S46.5.1住居表示	大蔵一～六丁目	おおくら	大蔵町大部分、喜多見町・鎌田町・岡本町・玉川瀬田町・玉川用賀町3丁目一部
岡本村			砧村岡本	世田谷区岡本町			S43.10.1住居表示	岡本一～三丁目	おかもと	岡本町大部分、玉川瀬田町・大蔵町・鎌田町一部
鎌田村			砧村鎌田	世田谷区鎌田町		S30年再編・南部	S46.5.1住居表示	鎌田一～四丁目	かまた	鎌田町大部分、岡本町一部
大蔵村・鎌田村飛地						S30年鎌田町に編入				
久地村		高津村久地	砧村久地	世田谷区久地町		S30年鎌田町に編入				
諏訪河原村		高津村諏訪河原	砧村諏訪河原	世田谷区諏訪町		S30年鎌田町に編入				
宇奈根村			砧村宇奈根	世田谷区宇奈根町			S46.5.1住居表示	宇奈根一～三丁目	うなね	宇奈根町大部分、鎌田町・喜多見町字下河原一部
喜多見村			砧村喜多見	世田谷区喜多見町			S46.5.1住居表示	喜多見一～九丁目	きたみ	喜多見町大部分、宇奈根町・大蔵町・鎌田町一部
喜多見村			砧村喜多見	世田谷区成城町	大字喜多見成城		S45.3.1住居表示	成城一～九丁目	せいじょう	成城町大部分、祖師ヶ谷1～2丁目・砧町・喜多見町・大蔵町一部

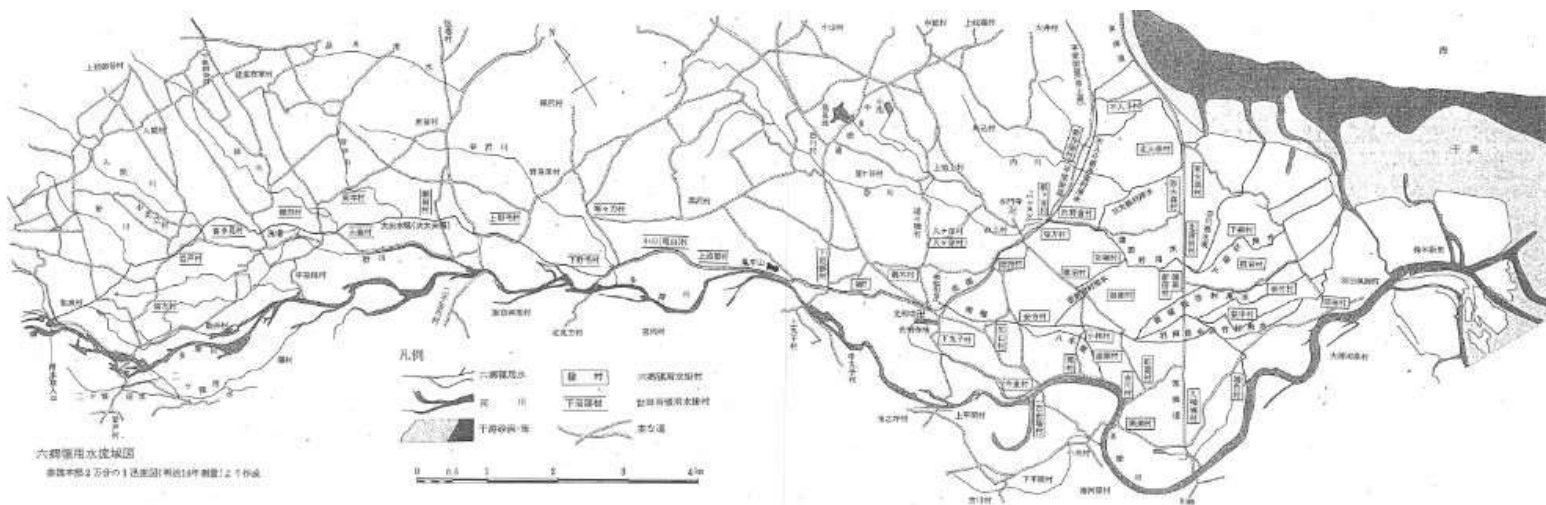
# 大蔵村・横根村・鎌田村が混在



町名変遷図 世田谷区玉川地区

江戸	明治2年	明治5年	明治22年	昭和7年					
等々力村			玉川村 等々力	世田谷区 玉川等々 力町一～ 三丁目	S45.3.1住居表示	等々力一～八 丁目	とどろき	玉川等々力町一～三丁 目、玉川尾山町、玉川中町 一・二丁目、深沢町二丁目 の一部	
等々力村					S43.3.15住居表示 S45.3.1住居表示	玉堤一～二丁 目	たまづつみ	玉川等々力町一丁目、玉 川尾山町の一部	
等々力村			玉川村 等々力	等々力字 諏訪分	世田谷区 東玉川町	S42.6.1住居表示	東玉川一～二 丁目	ひがしたま がわ	東玉川町の一部
等々力村			玉川村 等々力・奥 沢		世田谷区 玉川田園 調布一～ 二丁目	S45.3.1住居表示	玉川田園調布 一～二丁目	たまがわで んえんちょう ふ	玉川田園調布一・二丁目、 玉川尾山町、玉川奥沢町 二・三丁目の一部
奥沢本村	明治8年 奥沢新田 を編入し 奥沢村と 改称		玉川村奥 沢		世田谷区 玉川奥沢 町一～三 丁目	S45.3.1住居表示	奥沢一～八丁 目	おくさわ	玉川奥沢町一～三丁目、 玉川田園調布二丁目、玉 川等々力町三丁目の一部
小山村	明治8年 以降に尾 山村と改 称		玉川村尾 山		世田谷区 玉川尾山 町	S45.3.1住居表示	尾山台一～三 丁目	おやまだい	玉川尾山町、玉川等々力 一丁目、玉川田園調布一 丁目、玉川奥沢三丁目の 一部
上野毛村			玉川村上 野毛		世田谷区 玉川上野 毛町	S44.2.1住居表示	上野毛一～四 丁目	かみのげ	玉川上野毛町、玉川野毛 町、玉川中町一・二丁目、 玉川瀬田町の一部
下野毛村			玉川村下 野毛		世田谷区 玉川野毛 町	S44.2.1住居表示	野毛一丁目	のげ	玉川野毛町、玉川上野毛 町、玉川等々力町一丁目 の一部
野良田村			玉川村野 良田		世田谷区 玉川中町 一～二丁 目	S44.2.1住居表示	中町一～五丁 目	なかまち	玉川中町一・二丁目、玉川 野毛町、玉川等々力町二 丁目の一部
瀬田村			玉川村瀬 田		世田谷区 玉川瀬田 町	S46.9.1住居表示	瀬田一～五丁 目	せた	玉川瀬田町大部分、玉川 用賀町一丁目、玉川上野 毛町、岡本町の一部
瀬田村			玉川村瀬 田・諏訪河 原		世田谷区 玉川町	S43.7.15住居表示	玉川一～四丁 目	たまがわ	玉川町、鎌田、岡本町、大 蔵町、玉川瀬田町の一部
用賀村			玉川村用 賀		世田谷区 玉川用賀 町一～三 丁目	S46.9.1住居表示	用賀一～四丁 目	ようが	玉川用賀町一丁目、玉川 中町二丁目、玉川上野毛 町の一部
用賀村			玉川村用 賀		世田谷区 玉川用賀 町一～三 丁目	S43.3.15住居表示	上用賀一～六 丁目	かみようが	玉川用賀町二・三丁目、玉 川瀬田町、世田谷五丁目 の一部
用賀村			玉川村用 賀		世田谷区 玉川用賀 町一～三 丁目	S46.9.1住居表示	玉川台一～二 丁目	たまがわだ い	玉川用賀町一・二丁目、玉 川瀬田町の一部

# 六郷用水と二ヶ領用水路図



# 洪水の記録

## ・多摩川左岸

狛江市猪方村 洪水の記録とその原因  
歌碑の流失と再建  
昭和49年の堤防決壊

狛江市	30回	猪方・和泉・岩戸・ 六郷用水取水口
世田谷区	12回	喜多見・下野毛・井伊領・ 宇奈根・瀬田・大蔵
大田区	10回	羽田・六郷・池上・大森・ 矢口・嶺・古市場

## ・多摩川右岸

二ヶ領用水取水口の変遷  
明治40年・43年の洪水を契機に、  
新堤防建設の動き  
アミガサ事件・有吉堤を経て、  
大正7年～昭和9年

多摩区	11回	登戸・宿河原・菅・上菅生・ 二ヶ領用水取水口
高津区	2回	北見方・諏訪河原・二子・ 溝ノ口・久地
中原区	3回	上平間・平間
幸区	6回	南加瀬・下平間・南河原
川崎区	13回	川崎・川崎宿・六郷橋・ 六百代・大島新田

# 狛江付近の 旧流路

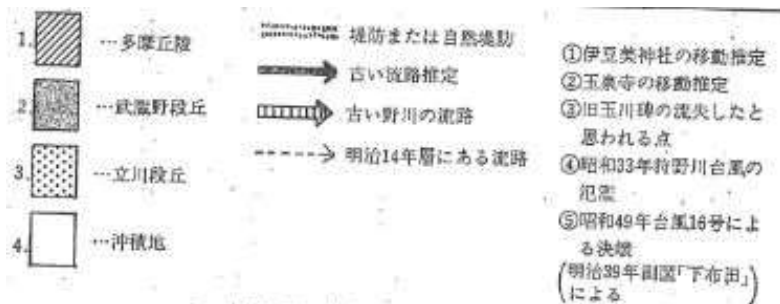
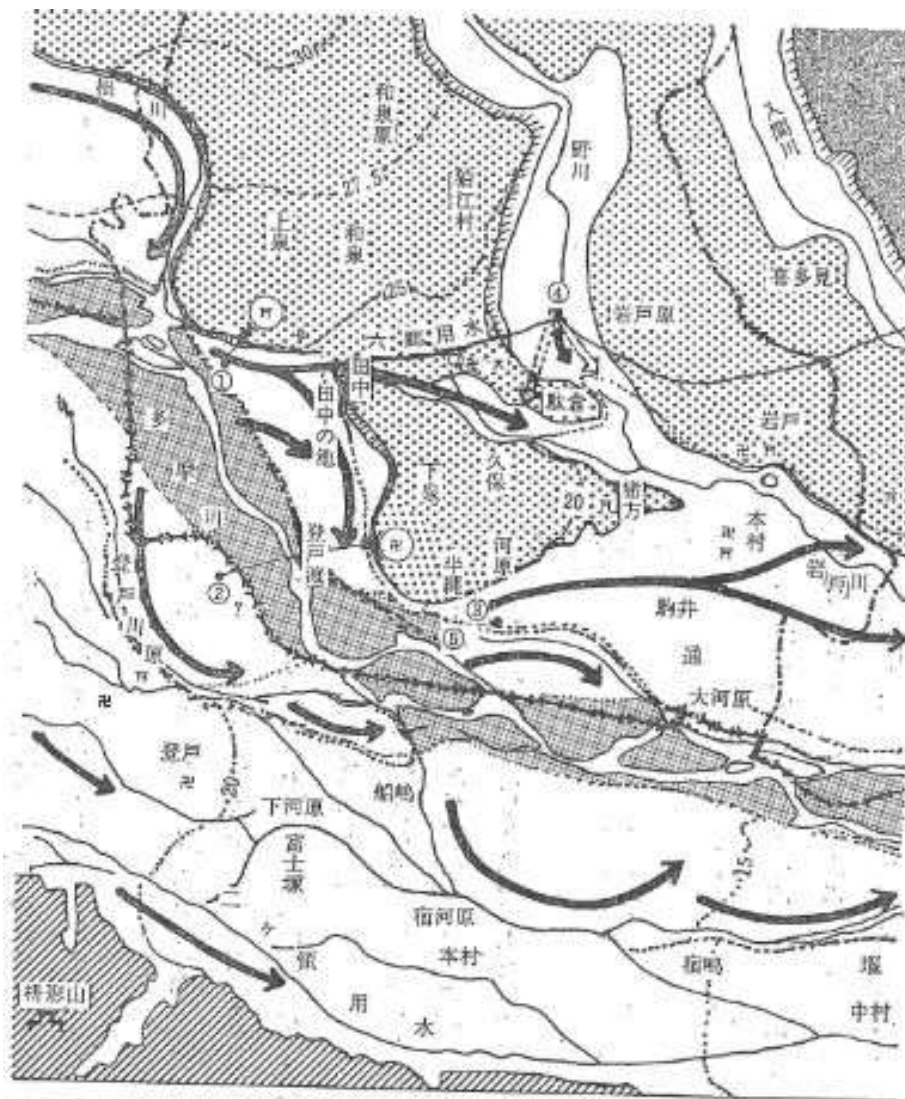
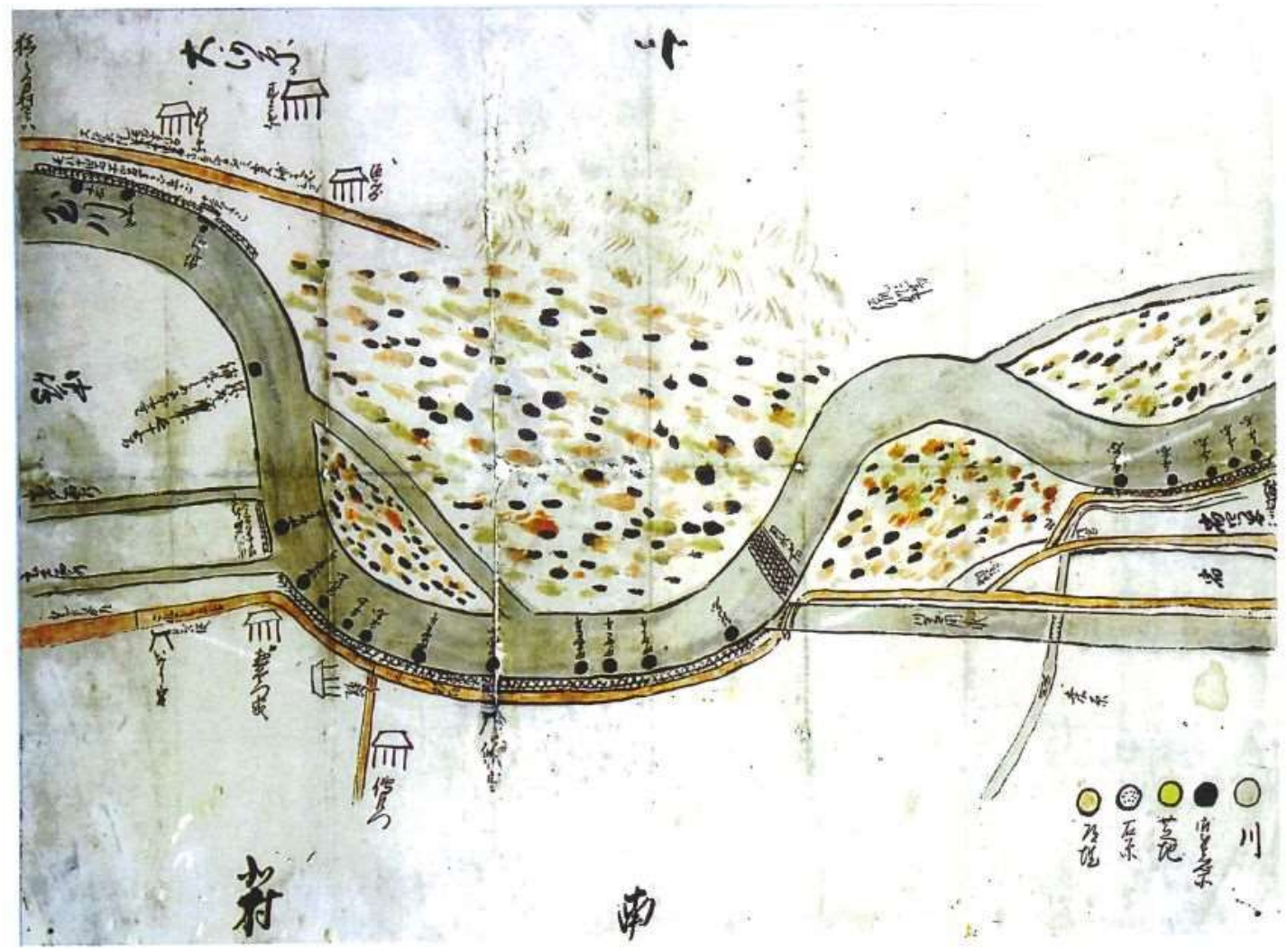


図1-26 多摩川の古い流路推定図

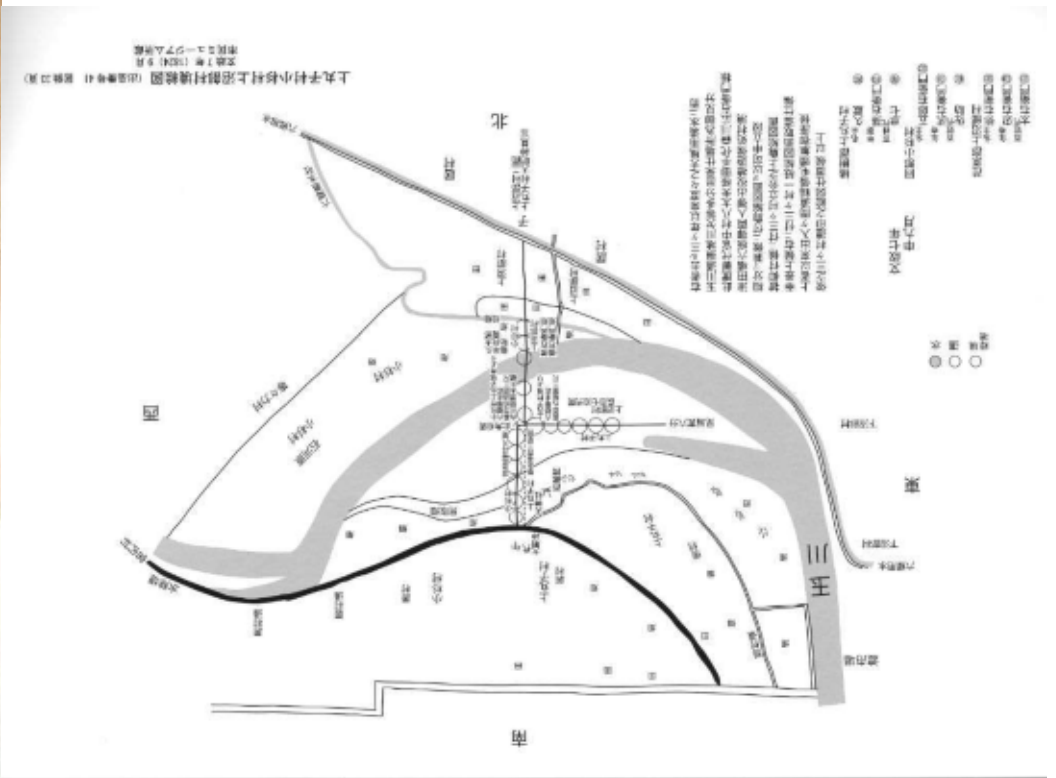
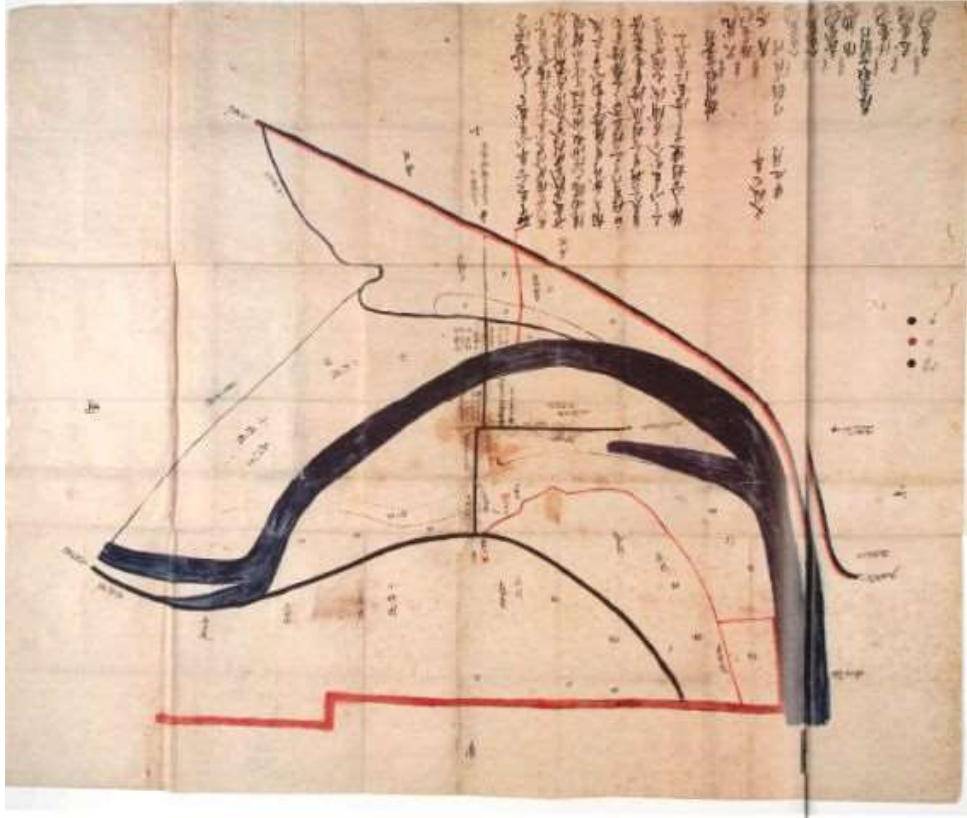




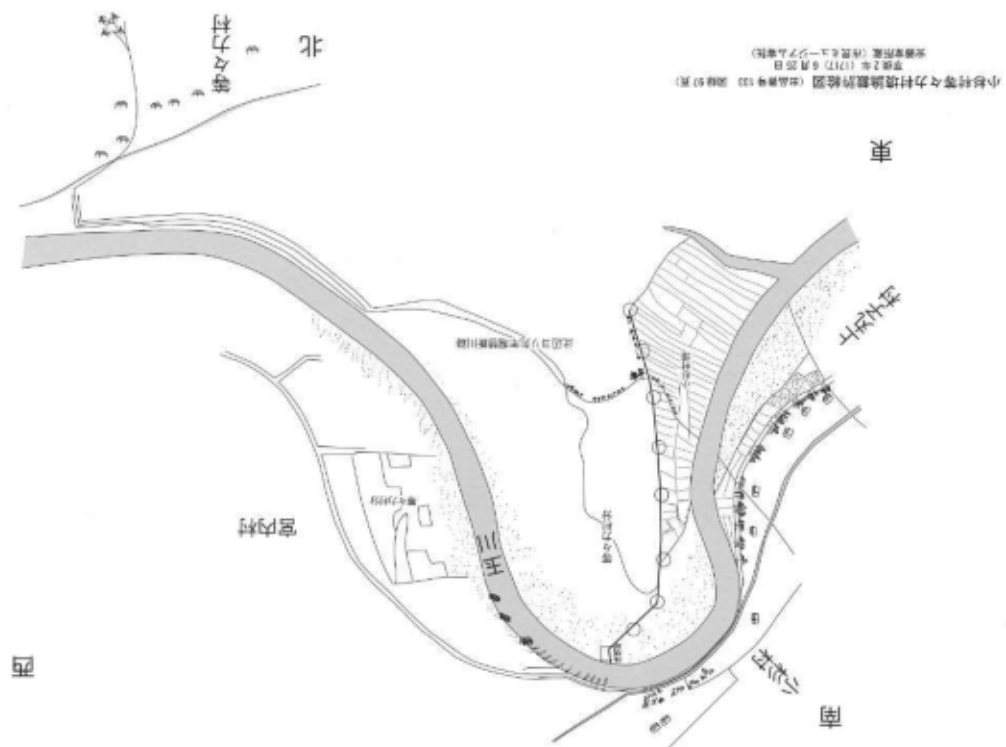
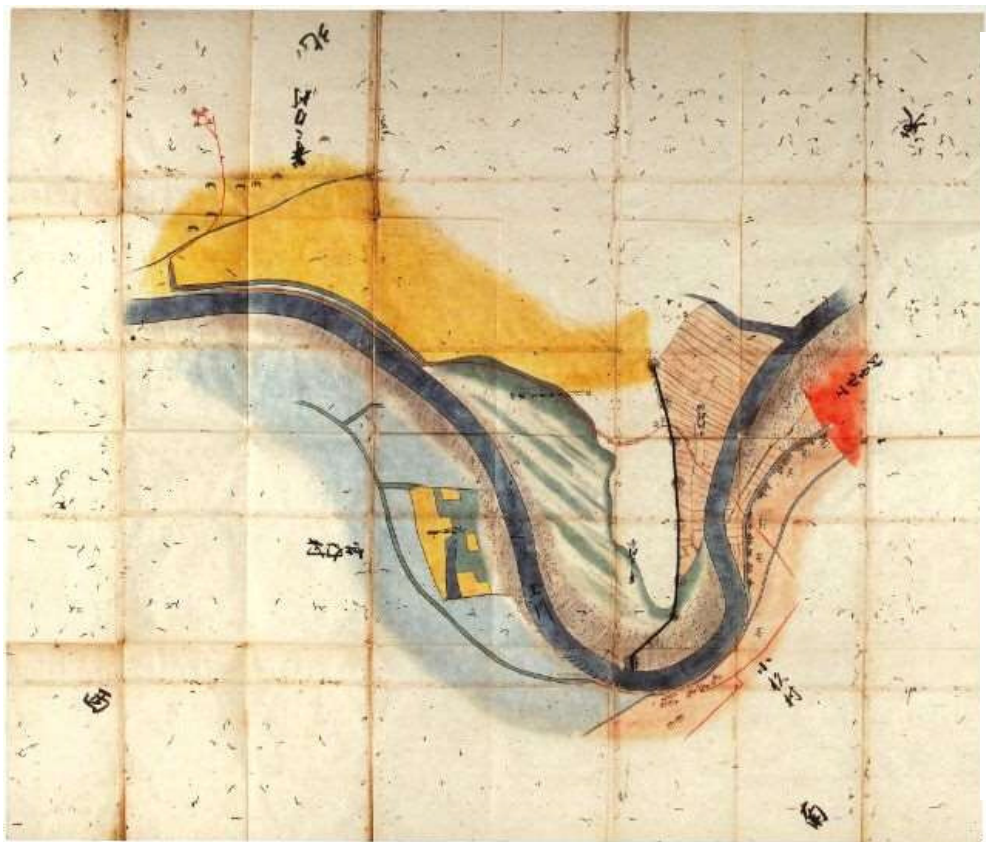
玉川絵図 享保〜宝暦年間  
現在の宿河原取水口以前



# 上丸子村小杉村上沼部村境絵図 文政7年(1824年)



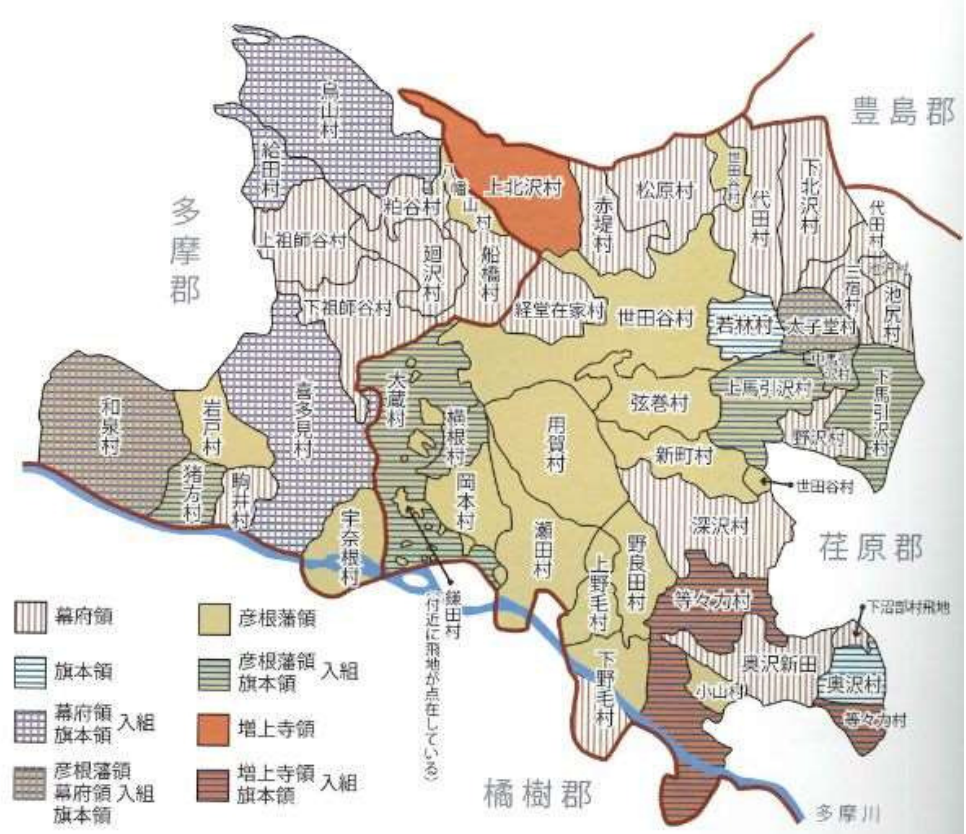
# 小杉村等々力村境論裁許絵図 享保2年(1717年)



# 村支配(知行地)の変化 世田谷の場合

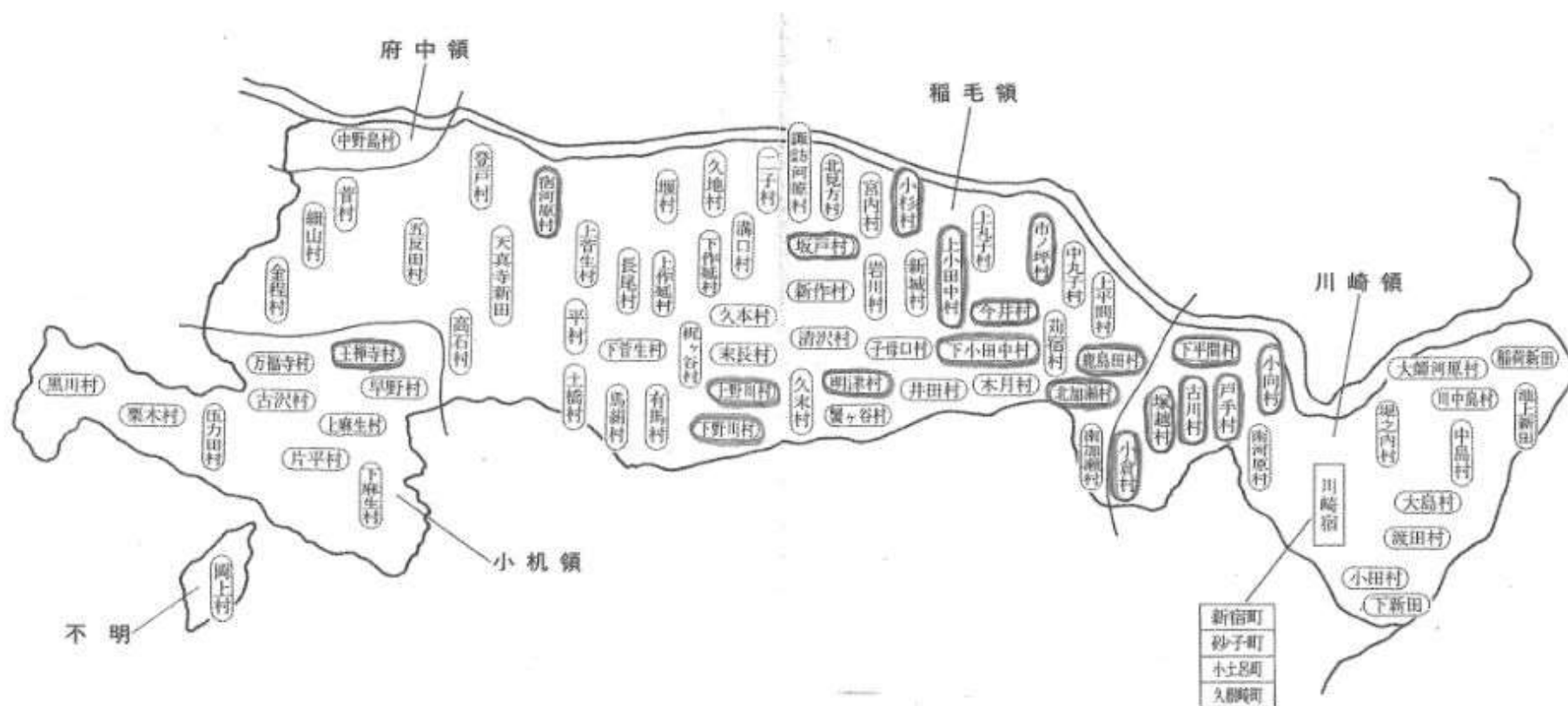


世田谷知行図 (近世初期)



世田谷知行図 (近世中期以降)

# 村支配(知行地)の変化 増上寺領・天領・旗本領



# 消えてしまった町名・地名 大蔵村地図

- 世田谷区 横根村 → 大蔵村の一部 →  
大蔵一丁目、砧一丁目、砧公園  
野良田村 → 玉川中町一丁目～  
二丁目 → 中町一～五丁目  
廻沢村 → 千歳台  
下代田村 → 代沢一～五丁目
- 高津区 清沢村・岩川村 → 千年村



# 新しく生まれた町名・地名

## ・世田谷区

砧村→砧町→砧一～八丁目、砧公園

千歳村→千歳台

駒沢村→駒沢町→駒沢一～五丁目、駒沢公園

玉川村→玉川町→玉川一～四丁目、東玉川  
一・二丁目、玉川台、玉川田園調布一・二丁目

世田ヶ谷→羽根木

代田→代沢(代田・北沢)、大原

喜多見→喜多見成城→成城一～九丁目



# 新しく生まれた町名・地名

- 高津区

清沢村・岩川村→千年村→千年、千年新町

子母口・千年→子母口富士見台

上作延・梶ヶ谷→向ヶ丘、宮崎

下野毛

瀬田

- 中原区

下沼部

等々力

上平間→田尻町、北谷町

今井→今井上町、今井仲町、今井西町、  
今井南町

荻宿・北加瀬→大倉町・西加瀬

井田→井田一～三丁目、井田三舞町、  
井田杉山町、井田中ノ町

木月→木月一～四丁目、木月住吉町、  
木月伊勢町、木月大町、木月祇園町

小杉→小杉町一～三丁目、小杉御殿町一・二丁目、  
小杉陣屋町一・二丁目

上丸子→上丸子山王町一・二丁目、上丸子天神町、  
上丸子八幡町、新丸子町、新丸子東一～  
三丁目、丸子通一・二丁目

新城→新城一～五丁目、上新城一・二丁目、  
下新城一～三丁目、新城中町



# 短縮・省略された町名・地名

- 世田谷区

下北沢→北沢一～五丁目(下北沢駅)

下野毛→野毛町→野毛一～三丁目

経堂在家→経堂町→経堂一～五丁目

上馬引沢→上馬町一～三丁目→

上馬一～五丁目

下馬引沢→下馬町一～三丁目→

下馬一～六丁目

小山村→尾山村→玉川尾山町→

尾山台一～三丁目

上祖師ヶ谷→祖師ヶ谷一・二丁目→

上祖師谷一～七丁目

下祖師ヶ谷→祖師ヶ谷一・二丁目～

祖師谷一～六丁目

- 高津区

諏訪河原村→諏訪→諏訪一～三丁目

# 探訪1 1月28日

世田谷区岡本付近の六郷用水



# 探訪2 2月4日

多摩区宿河原八幡下の記念ボード



# 「多摩川両岸の地形や土地利用」

～高津区・中原区と世田谷区を中心に～

探訪 1 世田谷コース

実施日 平成 29 年 1 月 28 日（土）午後 1 時 30 分

二子玉川駅集合

**二子橋親柱** 大山街道（矢倉沢往還）には二子の渡しがあった。大正 14 年に二子橋ができ、渡しは廃止された。昭和 2 年に玉川電気鉄道が溝の口まで開通し、二子橋を共用するようになった。昭和 41 年に大井町線の専用鉄橋ができるまで、共用が続いた。その間、交通量が増え橋の幅を広げる工事が行われ、親柱が撤去され、現在地に移転し記念物として顕彰している。

**六郷用水** 慶長 2 年（1597）から 14 年の歳月をかけて完成した、多摩川左岸の灌漑用水で、六郷領に主に水を流したため、六郷用水と言っていた。また、奉行の小泉次大夫が普請したところから、次大夫堀とも言われている。近年になって、六郷用水を復活させ、丸子川などとも言われるようになった。

**瀬田玉川神社** 祭神は日本武尊・大己貴命・少彦名命。境内末社 稲荷神社 倉稲魂命。飛地境内末社 瘡守稲荷神社がある。旧社名は「御嶽神社」といった。明治 41 年に村内の小社を合祀して、玉川神社と改称した。『風土記稿』に「熊野稲荷氷川第六天疱瘡神の小祠を相殿す」とあるように、村内の神社を初めから分祀していたようである。昭和 41 年の台風で東京都に指定天然記念物の赤松が倒れ、これを契機に社殿・社務所を新築し、同 43 年に完成した。地続きの慈眼寺が別当寺あったようで、社僧相伝では此社の神体は劔を持つ五大尊の形に似るといのように、神仏混淆の神社であった。明治 42 年頃、玉川電鉄は玉川神社のある丘の下の土地を借り受けて「玉川遊園地」を造り、高台には「玉川閣」という演芸場を建設するなど、観光地として賑わった。昭和 7 年に世田谷区が成立し、玉川町を分離し、玉川瀬田町となった。昭和 46 年に住居表示を実施して、瀬田と玉川の町名となった。瀬田は世田谷のセタとも通じ、多摩川の瀬（比較的浅い流れ）のタ（所）という意味であろう。

**次大夫橋** 六郷用水を次大夫堀とも言う。用水奉行の小泉次大夫の名にちなむ。その用水に架かる橋の名としてこの場所に架かる。多摩川を渡って、この崖を抜けて江戸に向ったこの道が「鎌倉道」という重要な道であったところからの橋の名か。

- 岡本・谷戸川** 静嘉堂文庫の敷地内を流れる川が、谷戸川で、瀬田村と岡本村の境を流れており、岡本村のはずれで、六郷用水に流れ込んでいる。静嘉堂文庫は旧岩崎家の別荘であったところで、その後国立国会図書館の古文書資料を主に収蔵する施設として利用されてきた。現在は、静嘉堂文庫として、一般に公開している。敷地内には、岩崎家の墓所などがあり、多摩川を見下ろす景勝地にあることが重要である。  
地続きには、岡本八幡神社や岡本ふるさと村があり、昔の景観をとどめる場所として活用されている。
- 大蔵氷川神社** 小名本村にあり、二の宮として崇められていた。近くにある永安寺の持とあり、棟札には「武蔵国荏原郡石井土郷大蔵村氷川大明神四ノ宮」とある。永安寺には絵図があり、寺の下に六郷用水が流れ、村人の生活のようすを詳細に描いている。
- 六郷用水跡碑** かつてここに六郷用水が流れていたことを知る記念碑である。道しるべを兼ねて、用水を偲ぶ。
- 野川** 国分寺崖線の国分寺市東恋ヶ窪を水源として、途中真姿の池湧水群やハケ下の湧水を合わせて喜多見付近に至る。以前は、狛江付近で六郷用水に合流していたが、周辺の開発により、昭和 42 年ころに入間川に付け替えられ、現在に至っている。
- 次大夫堀公園** 昔の六郷用水を再現し、懸樋の部分サイホンの原理で通すなど、市民に親しめる公園づくりをしている。蛇行した水路に水田が再現されている。公園内にある資料館には、六郷用水関係の資料が展示してあり、現在失われてしまった流路などの確認できる。
- 喜多見** 喜多見は北見と記す資料もあり、好字を充てて喜多見としたのではないか。川崎側の北見方は、世田谷の喜多見に関係する土地であった可能性がある。江戸氏の流れをくむ武士が喜多見氏を名乗り、喜多見城（陣屋）などの旧跡がある。
- 成城三丁目緑地** 国分寺崖線に位置し、現在ニカ所から湧水が出ている。世田谷区の緑地公園として整備し、世田谷トラストまちづくりなどが「成城三丁目緑地里山づくりコア会議」として活動して、みどりの保全をしている。
- 喜多見駅前解散**

# 「多摩川両岸の地形や土地利用」

～高津区・中原区と世田谷区を中心に～

探訪 2 川崎コース

実施日 平成 29 年 2 月 4 日（土）午後 1 時 30 分

宿河原駅集合

## 八幡神社

宿河原八幡神社のある場所は、常照寺の観音堂があった場所である。もと社地は多摩川の北岸にあったが、川の流れが北に移動し、神社は流失してしまった。そこで、観音堂を常照寺境内に移して、そこに社を建てたという。

狛江市に宿河原の飛地があり、大字として残っていたが、昭和 57 年に駒井町三丁目の一部となり、東京側の宿河原の地名は消えた。『小田原所領役帳』には、駒井宿河原、駒井登戸とあり、多摩川の北に位置していたと考えられている。

## 二ヶ領用水

二ヶ領用水は六郷用水と同時に用水の計画が出され、工事にあたったところから、四ヶ領用水とも呼ばれていた。二ヶ領用水の取水口については、いろいろ論議されてきたが、新しい資料や実地検分の結果、今回案内するような経緯であったと思われる。二ヶ領とは稲毛領・川崎領のことで、川下の 60 カ村に灌漑用水として利用された。

## 八幡下坎樋

この場所は二ヶ領用水宿河原線（本川）の流れの上を二ヶ領用水上河原線（新川）から取水した五ヶ村用水の一部が掛井を使って、宿河原の地に流れていたところからの名称である。八幡下は、先ほどの八幡神社の下という意味である。

ここに旧多摩川の流路を示した絵図がある。宝暦年間（1751～63）頃に描かれたもので、この頃まで多摩川は宿河原の村を二分するように流れていたことが分かり、取水口もこの位置にあったことになる。

小泉次大夫が二ヶ領用水を完成し、24 年後に代官伊奈半左衛門の手代算助兵衛が取水口を新設したのも、享保年間に田中休愚が改修したのもこの地点のことである。そのおり、上河原（中野島）取水口を新設したと考えるのが順当ではないか。

## 緑化センター

川崎市の農業試験場跡を市民に開放する施設として開設した。四季折々の樹木や花卉を展示したり、講習会を開いたりして緑化活動をサポートしている。

**旧多摩川流路跡** 先ほどの絵図にあった、急カーブの多摩川流路跡が残る。流路跡は南武線で遮断されており、一部は市道として利用されているが、一般には気づかない場所にある。この流路跡をしばらく歩いてみよう。  
南武線の小さな踏切があり、一段高くなっている。これが旧多摩川の自然堤防で、「かすみ堤」ともいう。自然堤防の上は生活道路として活用され、河川跡は園芸農家の樹木が植えられている。この付近は一般に「宿河原堤」と呼ばれている。

**堰の長池** 東名高速道路下あたりを「堰の長池」と呼んでいるが、宿河原堤のあたりから細長い池として存在した。出水すると水が中々引かずに、この付近に池を形成した。  
『久地小学校副読本』に、「多摩川音頭にもうたわれ、今の宿河原の新明国上教会から向の岡工業高校にわたり、横幅も十七、八間あった。水は、二ヶ領用水から流れ込んでいた。旧多摩川の流路跡で、戦後まで残っていた。池のまわりには、背の高いヨシやマコモが一面においしげり、池の中には、コイ、ナマズ、ウナギ、川エビをはじめとして、あらゆる種類の川魚が住んでいた。昔は、〈主が住んでいる〉と言い伝えがあり、人々はあまり近づかなかった。昭和初期になってから、いろいろなことに使われ始め、主にプール、つり堀、水田の水源として地元の人々に利用された」。東名高速道路ができたので、児童公園など整備されてしまい、一段低い池の形状がわからなくなってしまった。旧流路跡の一部は遊歩道として整備されつつある。道路脇の遊休地では花壇など地域の人が有効活用している。

**堰稻荷神社** 堰の地名の由来は、自然堤防の堰のことであろうが、言い伝えがなく、用水を堰きとめたところからなどと言う。堰稻荷神社の説明板に、堰村の開発の歴史が載っており、旧家の伝承がのる。保谷新田からの開発者とあるが、保谷村を多摩川上流としているが、保谷村は現在の西東京市である。

**山野川** 宇奈根は東京側にもある。川崎側の宇奈根は本村の飛地であった。明治45年に多摩川を境界に神奈川に分割された。川崎側を宇奈根字山野と呼んでいた。サンヤは村の中で、開発の遅かった地に付く場合が多い。二ヶ領用水からの排水路として、山野川が古地図に載る。

**久地円筒分水** 久地のハケ下に久地の分量樋があった。下流の村に均等に用水を分配する仕組みである。昭和16年、コンクリート製の円筒分水が完成して、水田の面積に合わせた分配システムを如実にわかる仕組みの施設を見ることができる。

武蔵溝ノ口駅前解散